

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

最近、BSE、SARS、高病原性鳥インフルエンザなどの人獣共通感染症が出現して大きな社会問題になっています。平成17年4月、本センターは農学部に鳥インフルエンザ等の鳥類から人に感染する感染病への対策を確立する目的で設立されました。鳥インフルエンザについては、国内での出現予測、病原体の生態、病原性、遺伝子性状の解析等を行い、新たな流行防止対策の確立を図り、国内危機管理体制確立に寄与することを目的としています。その他、サルモネラあるいは西ナイル熱などの対策に国際的な規模で取り組みます。

病態学研究部門

野鳥の生息状況、飛翔路、病原体保有状況調査、異なる動物間伝播のメカニズムの研究などを行っています。これらの研究により、今後我が国に侵入する恐れのある鳥由来人獣共通感染症を早期に発見し、直ちに対策を講じることができます。



鳥インフルエンザウイルスの保有宿主(カモ)



山階鳥類研究所との共同野鳥捕獲調査

疾病管理学研究部門

病原微生物の感受性や病原性獲得のメカニズム、新しい抗微生物活性物質の研究などを行っています。これらの研究により、鳥由来人獣共通感染症を防ぐための具体的な方策(抗ウイルスマスク等)の開発を目指します。



雛の感染実験におけるウイルス接種の様子



抗ウイルス活性を有する新規物質の検索



鳥インフルエンザウイルスの構造と電顕写真



鳥インフルエンザウイルスの遺伝子解析

分子疫学研究部門

疫学調査で得られた病原体の遺伝子の比較解析や分子疫学情報のデータベース化などを行っています。これらの研究により、鳥由来人獣共通感染症の流行を予測し、早期警報システムの確立を目指します。

共同研究体制

外国研究機関 韓国国立検疫科学研究所、米国農務省Southeast家禽研究所、ベトナム国立衛生疫学研究所、中国ハルビン獣医研究所など

国内研究機関 動物衛生研究所、(財)山階鳥類研究所、国立感染症研究所、北海道大学人獣共通感染症センター、東京大学医科学研究所、長崎大学熱帯医学研究所など

産業界 食品流通業界、養鶏業界、薬品業界、医療機関など